

(10) 子どもの抑うつ感情と自己肯定感の関係性

川崎医療福祉大学大学院 保健看護学専攻 修士課程 長町 展江
川崎医療福祉大学 保健看護学科 鈴井江三子

【要旨】

【目的】

子どもが持つ抑うつ感情及び自己肯定感の実態を明らかにする。

子どもの抑うつ感情と自己肯定感の関係性を明らかにする。

【対象と方法】

子どもの抑うつ感情を客観的に評価するため、改訂版子ども抑うつ尺度(Japanese Child Depression Scale)(13項目)(以下 JCDS と示す) を作成した。JCDS は第 1 因子「自己否定」(6 項目)、第 2 因子「孤独感」(4 項目)、第 3 因子「不完全な充足感」(3 項目) の 3 因子 13 項目が抽出された。クロンバツクの α 係数は、第 1 因子 0.780、第 2 因子 0.707、第 3 因子 0.651 であり、累積寄与率は 45.0% であった。JCDS と既存の子ども用 5 領域自尊心尺度 (佐藤, 1992) と併用し、岡山県内の小学 6 年生 340 人を対象に本調査を実施した。

【結果】

子どもの 16.7% は抑うつ感情が高いことが明らかになった。また、自己肯定感は平均値より低い子どもが 42.5% いることが明らかになった。

JCDS 得点と子ども用 5 領域自尊心尺度得点との総和間に負の相関 $r = -0.521$ ($p < 0.00$) を認めた。さらに、因子別の相関を求めたところ自己否定得点では $r = -0.348$ ($p < 0.00$)、孤独感得点では $r = -0.315$ ($p < 0.00$)、不完全な充足感得点では $r = -0.481$ ($p < 0.00$) であった。

【結論】

子どもの抑うつ感情には「自己否定」「孤独感」「不完全な充足感」の 3 因子が抽出された。子どもの 2 割程度は抑うつ感情が高く、4 割程度は自己肯定感が低いことが明らかになった。子どもの抑うつ感情と自己肯定感とは負の相関があり、因子別の相関では「不完全な充足感」が最も強い負の相関を示した。

【キーワード】

自己肯定感、抑うつ感情、子ども